

廃棄物の排出抑制とリサイクルの推進

ケイミーの各製造事業所では循環型社会の形成を見据え、廃棄物の削減と効率的なリサイクルを推進しています。

廃棄物削減及び社外リサイクルの推進

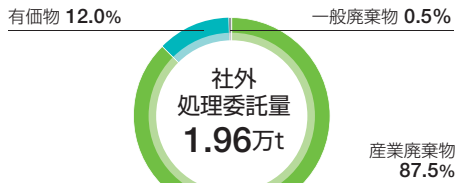
ケイミーでは不要物の処理を外部に委託していますが、全社でその削減に努めており、生産重量に対する社外処理重量の比率（社外処理重量原単位）を指標として前年比2%削減を目標としています。

2016年度の社外処理委託量は1.96万トンで前年比約17%、社外処理重量原単位は18.3kg/tで約13%の増加となりました。これは原材料配合比率の見直しの結果、リサイクル材料の配合比率が下がったこと（鹿島工場）、想定外の生産トラブルの発生による不良率悪化（堺、足利工場）、生産設備を使用した新商品の量産試作増加に伴い、通常生産との切り替え作業、清掃回数が増加し廃棄物が増加（足利工場）、工場環境の整備を目的とし、長期滞留品の廃棄を推進（滋賀工場）したことなどによります。有価物は量的に増大しましたが廃棄物処理の委託量も増えたためにその比率は低下しました。

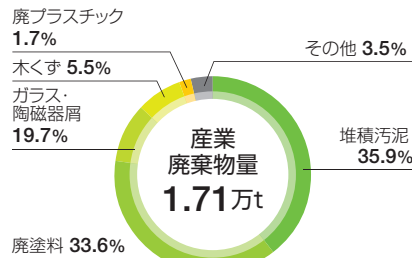
廃棄物の最終埋め立て処分量が338トンと大幅に増えたのは、中間処理が困難な複合素材の廃棄物が増加したことが要因で、それは埋め立て処分をせざるを得ず社外リサイクル率は98%で目標値の99%以上を下回りました。

* 有価物化率(%) = $\frac{\text{有価物量}}{\text{社外処理委託量}} \times 100$

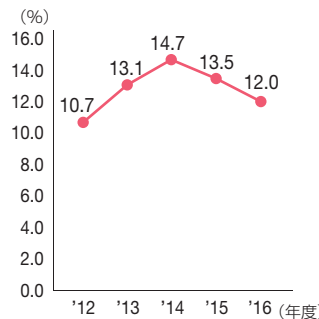
社外処理委託内訳(2016年度)



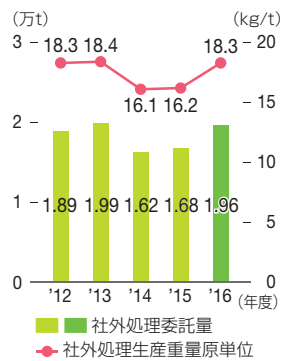
産業廃棄物内訳(2016年度)



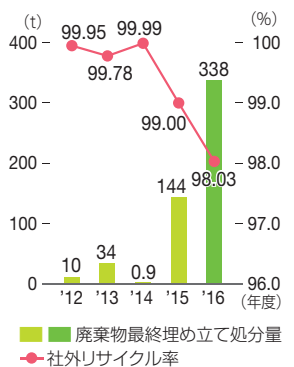
有価物化率の推移



社外処理委託量と重量原単位の推移



廃棄物最終埋め立て処分量・社外リサイクル率の推移



TOPICS

北九州工場における塗料廃液の抑制とその成果

当社外壁材の塗装工程ではエアレス式スプレー塗装機によりベース塗装を行っています。スプレー塗装ですから、製品表面にのらずにムダになるところもありますが、極力回収、再利用しようと試行錯誤しています。しかしそれでも塗装ブースのピットに散ってしまったオーバースプレーは産業廃棄物として処分するほかありません。特に小ロット品を生産するときはこの歩留まりが悪化し廃棄物が増え、環境への影響が懸念されていました。

北九州工場では少しでも無駄になる塗料を減らそうと製造

担当者、技術スタッフが集まり、設備の問題点の洗い出し、改善策を検討しました。その結果、スプレーノズルの消耗により噴霧状態が大きく変ること、塗料の回収方法に改善の余地があることがわかり、スプレー塗装機の噴霧ノズルの管理方法の見直しや、新たに塗料回収樋を取り付けるなど、これまでより無駄の少ない塗装方式を実現し、また塗料の回収再利用率を上げることが出来ました。その結果、品質を維持しながら塗料廃液排出量を1.7%削減することが出来ました。